

帯状疱疹予防接種をご希望の方へ

1. 帯状疱疹とは

帯状疱疹とは、過去に水痘（水ぼうそう）にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経に沿って帯状に水泡（水ぶくれ）が出現する病気で、70歳代で発症する方が最も多くなっています。合併症には皮膚の症状が治まった後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があります。

2. 帯状疱疹ワクチンとは

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン、組換えワクチンがあり、どちらか1種類を接種します。

生ワクチン：皮膚に1回接種します。

※病気や治療等で免疫の低下している方は、生ワクチンの接種ができません。

※生ワクチンの接種を希望される場合、輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上あけて接種してください。

組換えワクチン：筋肉内に2回接種します。（2回目は2か月以上間隔をあけます）

※病気や治療により、医師が早期の接種が必要と判断した場合は接種期間を1か月まで短縮できます。

※2回目に生ワクチンを接種すると、定期接種の対象ではなくなるためご注意ください。

帯状疱疹に対する効果	生ワクチン	組換えワクチン
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

3. 帯状疱疹ワクチンの副反応

報告の頻度	生ワクチン	組換えワクチン
70%以上	—	痛み
30%以上	発赤	発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感、熱感、痛み、硬結（硬くなる）	頭痛、腫脹、悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感、倦怠感、その他の痛み
ごくまれに起こる重いもの	アナフィラキシー ^(注1) 、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎	ショック、アナフィラキシー ^(注1)

(注1)：通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと

※ 接種後に気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師にご相談ください。

【裏面もご覧ください】

4. 接種時の注意

1) 一般的注意

- ①この説明書をよく読み、接種の必要性や副反応についてよく理解したうえで接種を受けてください。心配なことは福祉保健課や医師に相談してください。
- ②予診票は、接種をする医師にとって予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を接種医師に伝えてください。

2) 予防接種を受けることができない方

①明らかに発熱がある方

一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。

②急激に発症した重篤な病気にかかっていることが明らかな方

急激に発症した重い病気の場合は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性があるので、見合わせるのが原則です。

③このワクチンの成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことが明らかな方

④その他、医師が不適当な状態と判断した場合

上記①～④に入らなくても医師が接種不適当と判断した場合は接種できません。

3) 接種を受けるのに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない方

①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方

②これまでに予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹等のアレルギー症状があった方

③過去にけいれんを起こしたことがある方

④過去に免疫不全と診断されたことがある方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方

⑤ワクチンの成分に対して、アレルギー症状を起こす恐れがある方

※組換えワクチンの接種を希望される場合、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

⑥過去にこのワクチン接種を受けたことがある方や、带状疱疹ワクチン接種歴が不明な方

4) 接種後の一般的注意事項

①接種後30分は、急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。また、接種後1週間は体調に注意しましょう。

②入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。

③普段の生活をしても差し支えありませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

6. 予防接種における健康被害について

国が定める定期接種対象年齢の場合は、予防接種法に基づく救済制度が適用されます。それ以外の年齢の場合は、(独)医薬品医療機器総合機構による救済制度が適用されます。ただし、その健康被害が予防接種によるものかを審議し、認定された場合に補償を受けることができます。